JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	パンデミックの機会に地域整備に取り組んだ地方自治体の活動
Author(s)	谷口, 邦彦
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 180-183
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19504
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

１Ｃ０４

パンデミックの機会に地域整備に取り組んだ地方自治体の活動

○谷口 邦彦（関西産業活性協議会）
kutaniguchi@nifty.com

１．はじめに

2010 年初からコロナ渦が波状的に広がる様子をテレビ・新聞など報道で情報を得る一方、対応する活動を注視していた。その中で、政府では１月中旬には、厚生労働省の記者会見に、尾身茂氏などの同席を求めるようになり、2 月 3 日「新型コロナウィルス感染症対策アドバイザリーボード」の結成を同氏他に求めた。この日には折しも、プリンセス・ダイヤモンド号が横浜港に到着した。

この報告では、筆者が 80 年近く住んでいる大阪府箕面市の取組について記述する。箕面市は戦後の昭和 23 年１月１日に町制施行により箕面町となり、同８月１日止々呂美・萱野村を合併。同 31 年豊川村を合併し箕面市に、以後、約 40 年人口は 12 万 5000 人に増加、市域に大阪府明治の森国定公園を有し、更に、勝尾寺・龍安寺など観光の名所でもある。

2.　新型コロナに関する啓発活動

2.1　新型コロナに関する一般市民への啓発活動

一般市民への啓発は、①市の広報 ②ポスター ③箕面市や大阪府の社協などの地域活動を通じて行われた。

(1) 市の広報活動

政府の「三蜜」（図１）提示に続き、実利に繋がる「安倍のマスク」（図２）の配布が行われた。

(2) ポスター掲示

これらの広報に続いて、全国消防協会で公募しているポスターの最優秀賞にも図３に示す「マスク・戸締り・火の用心」が選ばれ、広く全国広報がされたところである。

図１三蜜

図２　安倍のマスク

図３　全国統一防火標語

今回 57 回目を迎えた全国統一防火標語の募集（2021 年９月 13 日～12 月５日）では、全国から 14,693 点の作品が寄せられ、作家の池井戸 潤（いけいど じゅん）さんなど３名の選考委員 による厳正な審査の結果、江口 雅子（えぐち まさこ）さんの「お出かけは マスク戸締り 火 の用心」が入選作品に選ばれた。

(3) 頂戴物の各種マスク

その後、幾人かの方々から手製のマスクを戴いた。
それらを戴いた方と逢う機会には着用することとしている。

しかし、病院・治療センター、NPO ナルクで支援に出かける時には施設指定の白マスクを着用している。

それぞれ、生地・製造方法に特徴があるが、写真では明確に区別できないので割愛する。

図４ 頂き物のマスク

2.2 政界と対コロナ政策

尾身[1]によれば、この間、オリンピック・パラリンピック 2020 に向けて、2020 年 7 月頃から「Goto トラベル」政策がスタートしようと準備の最終段階であったが、オリンピック・パラリンピックは、翌年に延期され、8 月 28 日安倍首相が辞意を表明し、9 月 14 日菅首相に代わっている。

時期は秋の旅行・運動会を越えて、忘年会、年を越えて新年会などに向かう時期であった。尾身[1]によれば、2020 年 10 月 23 日、感染が広がる 5 つの場面が提示された。

図５ 尾身 茂 著書

［場面１］飲食を伴う懇親会など
［場面２］大人数や長時間に及ぶ飲食
［場面３］マスク無しでの会話
［場面 4］狭い空間での共同生活
［場面 5］居場所の切り替わり：仕事場、休憩室、などの入れ替わり。気の緩みが出る。

しかし、ワクチンの接種体制は整わず、第１回ワクチン接種（2021.6.4）までには１年を要しており、その後は、第２回：2021 年 6 月 25 日、第３回：2022 年 1 月 27 日、第４回目：同 6 月 27 日、第 5 回目：同 11 月 7 日、第 6 回目：2023 年 11 月 7 日と接種を済ませている。

そして、厚生労働省から 2023 年 4 月 27 日に「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る 新型インフルエンザ等感染症から 5 類感染症への移行について」とする通達が出された[2]。

3. 箕面市におけるクラスター発生と地域整備の取組み

3.1 箕面市におけるクラスター発生

箕面市の「T 病院」で 2020 年５月、入院患者ら８９人が新型コロナウイルスに感染するクラスター（感染者集団）が発生し、うち１１人が死亡していたことが分かった。

同病院の説明によると、５月７日に精神科病棟で勤務する看護師の感染が確認された後、施設内で感染が拡大。６月７日までに入院患者約２５０人のうち７０人と看護師１９人の感染が確認された。

重症化するなどで約３５人は転院が必要とされ、池田保健所が手続きを進めたが医療態勢が逼迫（ひっぱく）していたため難航。５月１４日から順次転院できたものの、転院した２人を含む入院患者１１人が死亡した。死亡したのは７０～８０代が中心だった。

６月８日以降、同病院での新規感染者は確認されていない。同病院の関係者は「クラスターは収束したとみている」とした上で、「多数の方が亡くなり申し訳ない」と話した。

3.2 箕面市立病院：「地域医療支援病院」に

図６　箕面市月報「もみじだより」（令和２年５月号）

箕面市立病院は平成 22 年 11 月 19 日に「地域医療支援病院」の承認をうけた。地域医療ネットワークシステムとは、インターネットを活用して、地域の医療機関（かかりつけ医）が市立病院に保存されている患者様の診療に関する情報を参照するシステム。

これにより、患者様にはより安心・安全な診療を受けていただくことが出来る。

市民の利用に際しては、患者様の情報が外部に漏れないように厳格な仕組みを構築しているので安心して利用いただけるとしている。

このシステムは、かかりつけ医が患者様の情報を参照することに同意いただいた場合に限って利用することができる。

現在、箕面市内及び近隣医療機関に参加していただいている。

（令和５年４月現在）

通常は、広報誌「もみじだより」は、カラー版４０ページであるが、令和２年５月号は、図６に示す、モノクロ１枚の「新コロナウィルス感染症に関する緊急のお知らせ版」となった。また　前年度から企画されていた幾つかのイベントが中止された。

（１）こどもフェスティバル（2020 年３月 20 日開催予定）

（２）東京オリンピック聖火リレー（2020 年４月 14 日開催予定）

3.3　新型コロナにより観光業へのダメージ

箕面大滝・勝尾寺・龍安寺で有名な箕面の地に、1965 年旧桂小五郎別邸を基盤に「箕面温泉スパーガーデン」が開設され、３年後。「箕面観光ホテル」が開業した。この施設は、日帰り温泉だけでなく、歌謡ショーや大衆演劇、ゲームセンターやボウリングなど、多彩なレジャー施設を備えていた。しかし、近年は周辺に新しい温泉施設が増えたため、客足が減少して行き、2012 年には民事再生法の適用を申請、その後、2013 年には大江戸温泉物語が再建のスポンサーとなり、施設は「大江戸温泉物語 箕面観光ホテル」としてリニューアルオープンした。

夏の夕方など、浴衣姿の泊り客が駅前に多く見られ、喫茶店やバーなども賑わっていたが、新型コロナの流行により客足は絶え、未だ、回復の兆しも見えないが、横浜港への大型客船の入港も回復、関西

空港も賑わっており、箕面観光も箕面駅前から大滝・勝尾寺へのバス運行をするなど行政も取り組みを早めている。

3.4 小中学校：オンライン授業と文部科学省助成による情報環境整備

当時、小学校では、新型コロナウィルス感染防止により、臨時休業体制がとられ、オンライン授業が実施されたこと、また、登校時には午前登校グループと午後投稿グループに分かれた体制がとられ、正午頃には下校グループと登校グループがすれ違う状況が見られた。

しかし、途中からソロバン位の大きさの機器のようなものを携行するようになった。

その後、判ったことは、新型コロナウィルス感染拡大防止による臨時休業中、オンライン授業を実施、また、youtube の活用により 565 本の授業動画を配信していたことが報道された。

そして、後日の報道によれば、双方向によるオンライン授業をいつでも受講できる環境：「GIGA スクール構想」を活用して、小学校１年生から中学校３年生迄児童生徒全員（約１万 2500 人）に一人１台タブレットの端末を配備する体制を整備された由である。

箕面市には、中央官庁勤務体験の市長経験者などがおられ、新政策に関わる情報の早期把握に努める様子が伺える。

3.5 新病院構想

箕面市立病院は、昭和 56 年（1981 年）７月に開院し、以来、41 年にわたり市内唯一の急性期総合病院として、地域医療の中核を担ってきた。しかしながら、施設及び設備の老朽化や、構造上の制約により最新の医療機器に対応できないなどの課題があったことから、平 29 年（2017 年）12 月の箕面市議会で市立病院の移転建替えが決定した。移転先は、船場東地区の新駅「箕面船場阪大前」から約 300m（徒歩４分）という好立地である。

アクセス性を向上することにより、市内外からの患者の受け入れや医療従事者の確保といった従来からの役割に加え、産官学民連携による「健康寿命の延伸・ヘルスケア拠点としてのまちづくり」といった新たな価値の創造といった新たな価値の創造の一翼を担っていくことが期待されている。

4.おわりに

折しも、本年８月に行われた選挙で、若い市長・市議会議員が生まれた。今後も、タウンミーティングなどに積極的に参加し、街づくり・健康維持増進の一翼を担っていきたい。

参考文献

［１］尾身 茂「1100日間の葛藤：新型コロナ・パンデミック、専門家達の葛藤」2023年9月
日経ＢＰ社

［２］厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る 新型インフルエンザ等感染症から
5 類感染症への移行について（令 和 5 年 4 月 2 7 日：厚生労働大臣）